

# Culture Letter

カルチャーレター

“手作り”を感じられる  
コンサートを届けたい

歌手 夏川りみさん



幼少の頃から地元のど自慢大会に出場し、数回にわたり、大賞を獲得。そのたぐいまれな美声は成長とともに磨きがかかる、2001年の『涙(なだ)そうそう』の大ヒットにより、全国にその名が知れ渡りました。2003年には『童神(わらびがみ)』が胎教によりと評判に。今回のコンサートツアーのタイトルである『ココロツタエ』は、愛・地球博のNHK開連放送のテーマソングとしてもおなじみです。



Q 何度か和歌山にお越しいただいていますね。

A 以前、白浜でコンサートを行いました。その翌日、太陽の周りに虹を見たことが記憶に残っています。今回の『ココロツタエ』ツアーのコンセプトや選曲は、どのように考え、決定されましたか。



A “手作り”を感じられるコンサートにしたいと思いました。なので、いつもはおとなしめの曲が多いのですが、ファンのみなさんとステージを通して一つになれるよう、今回はみんなで踊れるようなテンポの曲も入れてみました。ステージと客席が一体化できれば、と思っています。

Q 今回のツアーで、心に残るエピソードはありますか。

A 烟取でのステージで雨に降られたのですが、お客さまがビショビショになりながらもずっと私の歌を聞いてくださったことがあります。

Q ツアーで全国各地を回るなど、忙しい日々を過ごされていると思いますが、ストレス解消などがあれば教えてください。

A 「よく食べ、よく飲み、よく眠ること」。健康が一番です。沖縄そばやてびち(豚足煮付)など沖縄料理も好きですよ。それと、飲んだ後にカラオケに行くことかな? ステージでも歌っているのに、もっともっと歌いたくなる日なども、カラオケに行きますね。

Q プライベートでもよく歌われるのですね。夏川さんにとって「歌うこと」とは何を意味しますか。

A 私のすべてです。  
Q 11月23日に待望のニューアルバム『彩風の音』がリリースされますが、どのような内容に仕上がっていますか。

A 大好きなミュージシャン仲間に曲を作ってもらいました。タイトルどおり、さまざまな色が音になったアルバムだと思います。ツアータイトルの『ココロツタエ』も収録されていますよ。

Q 11月21日に和歌山県民文化会館でコンサートツアー『ココロツタエ』が行われますが、最後に和歌山のファンへのメッセージをいただけますか。

A コンサートスタッフと共にステージを作り上げる楽しさを伝えることが、お客さまと一つになれる楽しいコンサートではないかな、と思っています。会場に足を運んでいただき、夏川りみをより身近に感じていただきたいです。



和歌山県文化表彰とは、和歌山県の文化向上・発展に顕著な功績のある人たちに贈られる賞です。

## 平成16年度 文化奨励賞

声楽家  
片桐仁美さん

昭和33年、和歌山市生まれ。大阪音楽大学卒業後、ウィーン国立音楽大学に進学。昭和63年、バイロイト音楽祭のソリストに抜擢（日本人では3人目）後、世界的メジャーな舞台で活躍。現在は活動の拠点を日本に移し、オペラやコンサートに数多く出演。大阪市在住。



歌をうたって一生過ごせたらいいなど、軽い気持ちで高校時代から始めた声楽。「志を大きく持つようにと教わりました。今から思えば先生に恵まれたと感謝しています」と片桐さん。音楽大学でみっちり鍛えられ、いずれは外国で勉強をしたいと思うようになり、ヨーロッパへ留学。世界のトップに触れ、意欲がさらに湧いたそうです。卒業と一緒にウィーン国立歌劇場と新人契約。バイロイト音楽祭でレヴァイン、シノボリ、バレン



メトロポリタン歌劇場  
(ニューヨーク)にて

ボイムと共に演したことがあつかけとなり、世界の舞台で活躍することになりました。

平成9年に帰国

後は日本を拠点として、NHK年末恒例のベートーヴェン「第九」、新国立劇場のオペラやコンサートに数多く出演。また、大阪音大の講師として後進の指導にもあたっています。

片桐さんの教育方針は、「プロの音楽家を育てる気持ちはそんなにありません。見込みのある生徒はスバルタ教育をしますけど(笑)」ということですが、「もちろん歌は上手になつてもらいたいと思っています。そのためには言葉の表現力が大切なので、正しく発音できることが必要です。そこはきちんと指導しています」。片桐さん自身、英語・ドイツ語の日常会話は不自由なくこなします。そのためには今まで相当な努力をしたとか。歌の持つ意味の理解力と言葉の表現

力の向上、正しい発音の必要性を生徒には強く説いています。また、「社会に幸せをもたらすことができる歌の素晴らしさや、音楽ってスゴイ!ということを教えられたらしい」とも強調します。

父親が転勤族だったので和歌山で生活したことがないという片桐さんですが、夏休みなどは両親の実家がある和歌山へ帰省をしていたとか。この受賞で和歌山の多くの人から連絡をもらい、縁の素晴らしさを知ったそうです。12月18日(日)、県民文化会館で開催される「第9交響曲演奏会」に片桐さんが出演します。『故郷』和歌山に素晴らしい歌声が響くことでしょう。



## 第59回和歌山県美術展覧会『県展』

和歌山県民の美術作品に対する創作意欲を盛んにし、美術文化の向上と発展を目指すために開催されます。本年の主な受賞者は以下の通りです。

	洋画	日本画	書	写真	工芸	彫塑	華道
知事賞	土井 久幸(和歌山市)	久保 礼子(大阪府)	中村 東貴(和歌山市)	柳原 正澄(商店街)	寺西 肇(和歌山市)	脇中 康(上富田町)	森井 千恵(和歌山市)
県教育委員会賞	栗本 邦男(和歌山市)	中井 勝子(和歌山市)	瓦屋 寿舟(岩出市)	谷田 茂夫(和歌山市)	武木サグ子(和歌山市)	西浦ひとみ(上富田町)	岡崎 玉峰(和歌山市)
毎日新聞社賞	松野 とき子(福岡市)	吉田 君子(和田町)	穢西 利幸(和歌山市)	藤合 和哉(奈良市)	田中 啓(大阪府)	田ノ内重由奈(田辺市)	酒井 由紀(和歌山市)
県美術家協会賞	山根 那嘉(沼津町)	春木 実(和歌山市)	志茂 瑞香(和歌山市)	水本 美智子(和歌山市)	森口 久次(高野町)	該当者なし	阿部 武司(群羽町)
県議会議長賞	中野 和夫(和歌山市)	森 泰三(和歌山市)	木村 雄山(和歌山市)	柳田 真奈美(和歌山市)	岡本 黒美(和歌山市)	該当者なし	鳥本 実里(和歌山市)
県文化振興財團賞	貴志 薫美(和歌山市)		森 進丸(和歌山市)				

■開催期間と展示会場(※各部門選抜作品を展示します)

【白浜農】

期間: 11月16日(水)~11月20日(日)

会場: 白浜会館(白浜町1-1)

【新宮農】

期間: 11月23日(祝)~11月27日(日)

会場: 新宮地城歴史創造センター(新宮市春日1-35)

【上富田農】

期間: 11月30日(水)~12月4日(日)

会場: 上富田文化会館(上富田町新栄758-1)

【橋本市】

期間: 12月7日(水)~12月11日(日)

会場: 橋本市体育館(橋本市北馬場455)

# 狂言鑑賞教室

海南市立第三中学校、県立桐蔭高校の生徒が舞台にあがり、狂言を体験します(ワークショップ)。その後、「柿山伏」と「附子」を鑑賞します。狂言の催しは、NPO「和歌の浦 万葉新能の会」と当財団が協力して行います。

日 時
平成17年11月14日(月)
開 演
午後2時(開場:午後1時半)
場 所
和歌山県民文化会館小ホール

## 柿山伏(かきやまぶし)

### あらすじ

羽黒山(はぐろざん)の山伏が帰国の途中、道端に柿の木がなっているのを見つけて、柿を食べ始めます。それを畠主が見つけ腹を立て、木陰に隠れた山伏をからかってやろうと、「あれは鳥だ」「猿だ」と声に出します。山伏はバーンいよいよ鳴き真似をしますが、畠主は「あれはトビだ。トビ

なら羽根を伸ばして鳴くものだが、鳴かないのなら人であろう」とからかうので、山伏はつられて高い木の上から飛び降りてしまうのです。

狂言とは便利なもので、何でも“あるつもり”で演技をします。その“つもり”的演技が十分に發揮されている演目一つです。

## 附子(ふす)

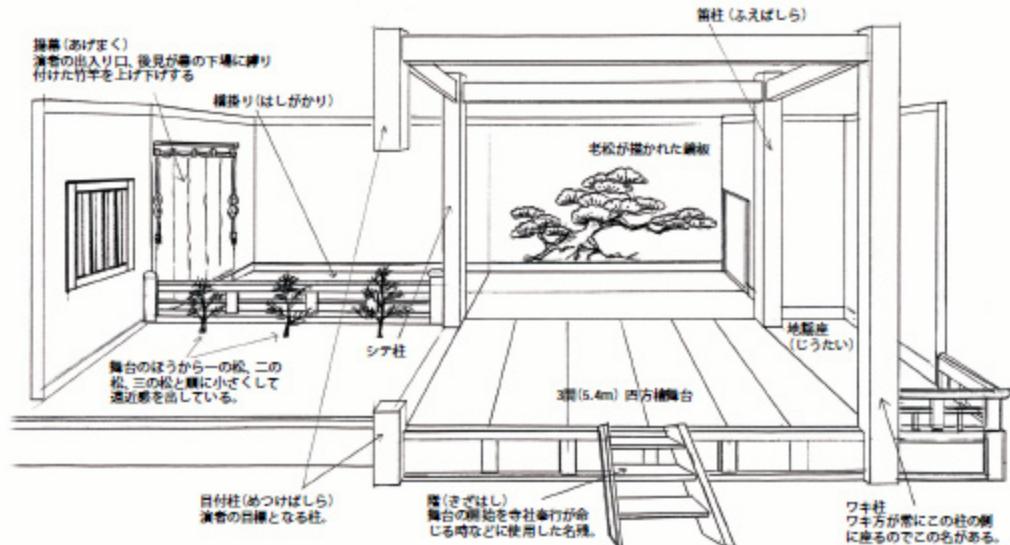
### あらすじ

山一つ向こうまで出かけることになった主人は、太郎冠者と次郎冠者に留守番を言いつけます。主人は2人に桶を見せ「この中に附子という毒が入っている。ここから吹く風に当たっただけでも死んでしまう

に見たくなるのが人情。2人は怖々と桶の中を覗くと、中身は附子ではなく砂糖でした。あまりにもおいしそうだったので、我慢ができずに2人は全部食べてしまったところ…。

一休さんのトンチ話や、小学校の国語の教科書에서도絶対に近づかないように」とい聞かせて出かけました。そう言われると逆

## 〈県民文化会館の能舞台〉



\*能楽堂では屋根が付いています。これは、明治以前は屋外で能が行われていた名残だといわれています

\*県民文化会館の能舞台は目付柱が途中でなくなっています。これは、客席から演者がよく見えるようにとの配慮からです

11  
14  
MON

## ウェルカム! 笑空間 ~みんなで楽しむ狂言鑑賞会~

■主催/NPO法人和歌の浦万葉新能の会  
(問)木村豊彦(TEL: 073-444-0155)  
■協力/(財)和歌山県文化振興財團

■開演/午後2時(開場/午後1時半)  
■場所/県民文化会館(小ホール)  
■入場料金/前売2000円・当日2500円  
学生1000円

演目は「盆山」と「純梅」。出演は、茂山千五郎、茂山七五三、茂山透平、松本薰ほか。

Check In Out

狂言とは…中國から来た歌舞(さんぎく)が日本に来て歌舞(さるがく)となり、やがて歌と組み合わされ、それが狂言の體にこつづけ、物説の美をまさ歌らして発展したもの。狂言の登場人物は、身近な親しみやすい普通の人たちです。

# 平成17年度きのくに移動芸術祭事業

地元コーラスグループも参加

【問】上富田町教育委員会 t 0739(47)5930

11/19  
SAT 土

## タケカワユキヒデ & T's COMPANYコンサート

■開演／午後7時(開場6時半) ■場所／上富田文化会館 ■入場料金／一般2500円・中学生以下2000円(当日一般3000円・中学生以下2500円) ●チケット販売中※全席指定

ゴダイゴのボーカリストとして、一世を風靡(ふうび)し、その後作曲家として名曲を世に送り出しているタケカワユキヒデ。「ガンドーラ」「ビューティフルネーム」など数々のヒットソングは世代を超えて多くの人々に親しまれ続けています。

今回のコンサートでは1998年から活動を続ける、タケカワの愛娘2人で結成されたT's COMPANYがジョイント。

上富田町文化協会に所属する地元コーラスグループも参加し、アットホームなハーモニーを楽しめます。

■主催/上富田町、上富田町教育委員会、知歌山県、(財)知歌山県文化振興財團



ほのぼのとした「音楽物語」の世界

【問】かつらぎ総合文化会館 t 0736(22)0303

11/22  
TUE 火

## 常田富士男と京フィル 夢いっぱいコンサート

■開演／午後6時半(開場6時) ■場所／かつらぎ総合文化会館(大ホール)  
■入場料金／大人2000円・中学生以下1000円 ●チケット発売中※全席自由席

『まんが日本昔ばなし』の声優としておなじみの常田富士男。その独特的な語り口調は聞く者の気持ちを癒やしてくれます。常田と京都フィルハーモニー室内合奏団が贈る「音楽物語」コンサートは、家族で楽しめるステージとして好評を博し、全国の県市

町村のイベントなどに招待されています。

「月のうさぎ」「なにもないねこ」など物語を通し、常田の心地よく温かい語り口と京フィルの生演奏により織し出す切々たる浪漫の世界が会場内に広がります。

■主催/かつらぎ町、かつらぎ町教育委員会、知歌山県、(財)知歌山県文化振興財團



弦楽器とピアノのハーモニー

【問】美里町文化センター t 073(495)9055

11/23  
WED 水

## 澤和樹とドイツの仲間たち 「ヘンシェル弦楽四重奏団を迎えて」

■開演／午後2時 ■場所／美里町文化センター ■入場料金／2000円(当日2500円)  
●11月2日からチケット発売 美里町文化センター(073-495-9055)他※全席自由席

日本を代表するヴァイオリニストの一人である澤和樹が、彼の長年のデュオのパートナーを務めるピアニスト夢沼恵美子と、ヘンシェル弦楽四重奏団を迎えてのコンサート。曲の間にトークを交え、ステージを盛り上げます。

ラヴェルの「弦楽四重奏曲」、モーツァルトの「弦楽五重奏曲ト短調K.516」、シューマン「ピアノ五重奏曲変ホ長調Op.44」などのクラシック曲を披露。会場内に数々の名曲が響きわたり、弦楽器とピアノの音色に酔いしれます。

■主催/美里町、美里町教育委員会、知歌山県、(財)知歌山県文化振興財團



# 和歌山 名品劇場

Wakayama  
Traditional Craft  
Theatre

## 皆地笠

田辺市本宮町

和歌山の風土から生まれ、  
今まで受け継がれてきた  
伝統工芸品を紹介します。

熊野本宮の山峠にある小さな村  
里・皆地。その昔、源平の戦に敗れ  
てこの地方に隠れ住んだ平家の公達  
が、日々の生計を支えるために、皆  
地あたりで産出する香り高い檜材を  
使って笠を編み出したといいます。  
これが熊野脂の人々に愛用されるよ  
うになり、広く親しまれていきました。

大正時代までは皆地で40戸あまり  
が笠作りを行っていましたが、現在  
では民芸細工師・芝安雄さんが製  
作するのみ。残念ながら後継者はな  
く、皆地笠作りを受け継ぐただひと



りの職人です。檜の薄皮と竹で縫  
目なく編む製法は、幼少の頃に父親  
から見よう見まねで学びました。と  
ころどろにカズラや桜皮、竹など  
をあしらい、ひとつひとつ見事な作  
品に仕上げています。

70年の経験の中でも、素材を見  
極めることが一番大変だと。自ら  
1日がかりで山に入り、樹齢60年以  
上の良い檜を探しますが、最近はな  
かなか見つけられないといいます。  
節が出てるものや曲がっているも  
のは使えず、1本の檜から使えると  
ころはわずかだそうです。

世界遺産登録により熊野古道を防  
れる人々が増えるにつれ、皆地笠の  
注目度は高まっています。比叡山  
延暦寺の高僧が「千日回峰」でかぶる  
阿闍梨(あじやり)笠や、創作を加え  
た行灯(あんどん)、花かごなども芝  
さんが製作しています。



熊野脂の人たちが皆地笠をかぶ  
り、長い道中の日よけや雨よけ  
に使ったといいます。今では川  
釣りや農作業時にもよく利用さ  
れるそうです



田辺市本宮町の小学生が工房へ社  
会見学に訪れたり、「森の名手・名人」  
(全国で100人)に選ばれた芝さん  
のもとに高校生が訪ねたり、またイ  
ベントで皆地笠を作ったりと、何と  
かこの伝統文化を後世に伝えようと  
懸命です。

【問い合わせ】  
田辺市本宮町皆地270  
N 0735-42-1330 (芝安雄)

## 世界遺産を巡る

### 一年の締めくくり 御幣納め

【開催場所】伽藍明神社 【日時】12月31日(土)

A 高野町高野山 [ 金剛峯寺 N 0736-56-2011 ]

大晦日の晩に、山内平穏や五穀の  
豊作を祈る伝統行事。龍光院の講員  
や信者が、御幣束と大松明を鎮守社  
に奉納します。御幣は長さ1mほど  
で、先に神幣を挟んだもの7本を一  
束とし、洗米の包みをくくりつけま

す。これを21束作り、ひ  
とつの大東として綱3本で締めます。

除夜の鐘が鳴り出す前、大松明を  
先頭に御幣、講員、信者の一行が続  
き、壇上へ向かいます。壇上明神社社  
頭に松明を打ち立て御幣を奉納し、



大松明の火は、献灯「お供え」的な意味がある

一同は心経を唱和。この後、承仕によ  
って伽藍の「高野四郎の鐘」が百八つ  
かれ、一年を締めくくり正月の到来  
を告げます。



ジャズを通して和歌山の魅力を発信!  
和歌山県ジャズプレイヤーズ協会 (WAJA)



ジャズが大好きな  
プレイヤーが集まり、  
相互の親睦やジャズ  
文化の発展、地域の活  
性化、他府県との交  
流・国際交流などに貢  
献したいと、2001年  
5月に発足した和歌山  
県ジャズプレイヤー  
ズ協会・WAJA（ワジャ）。  
誰もが気軽にあらゆるジャ  
ンルのジャズを楽しめる場  
を提供しています。現在約  
140人いる会員は、プロ・ア  
マを問わず、県内各地でバン  
ドや個人として演奏活動を  
行っています。

WAJAとしての活動は、  
和歌山県民文化祭のジャズ  
コンサートの開催、和歌浦ベ  
イマラソンコースでの演奏、  
和歌山市内各所のジャズス  
トリート主催など多岐にわ  
たっています。また毎月最終  
日曜日には、会員が後進の育  
成と、初心者指導のために楽



ウインタージャズコンサートの標榜  
器演奏の無料講習も行って  
います。「ジャズが好きで、  
自分が演奏したい楽器を持  
参すれば、私たちが丁寧に教  
えます。興味のある方は一  
緒に練習し、演奏を楽しめ  
ましょう。会員も募集中で、  
会費は無料です」と事務局長  
の片山博之さん。

今年の県民文化祭「ウイン  
タージャズコンサート」は  
12月4日(日)午後3時から  
和歌の浦アートキューブで  
開催され、15バンドほどが  
出演予定。迫力のある生演奏  
を中心まで堪能できるこ  
とでしょう。

和歌山の名物となった  
ジャズマラソンコース  
での演奏



会員の活動報告はホームページ  
<http://sound.jp/wa-j/>  
で、携帯電話からもOK



## 段ボールをもって公園へ! 大人も子どもも思いっきり遊ぼう

NPO法人子ども劇場和歌山県センター

NPO法人子ども劇場  
和歌山県センターが本町  
公園で行った「まちなか  
プレーパーク」。公園で  
のあそびを提案しようと、和歌山市の「わかやまの  
底力・市民提案実施事業」の  
委託を受けた「あそび心で活  
き活きまちづくり」の一環と  
して行いました。いつもの公  
園に段ボールを一つ持っていく  
だけで広がる「あそび」。



ボランティアのお姉さんはゴムとびも教えてもらいました。「明日もここで遊んでみよう。今日のあそびが明日につながり、この場所で遊んだ思い出が自分たちの住むまちへの愛情を育みます。

## 和歌山の昔話

### ポン太の腹つづみ



山の近くの婆さんの畠に柿の木が3本あったそうです。ある晩、狸のポン太は柿の実が食べたくなって盗み食いをしてしまいました。朝になって柿がなくなっているのに気づいたお婆さん、大きな昆蟲敷に柿を包み、仕掛けを作りました。夜中に案の定ポン太が引っこかがり、「こら、泥棒たぬき」と婆さんは杖で尻を叩くと、ボコボコとお寺の木魚のような音がしたのです。ポン太は驚き、嘘偽だったのに婆さんのことをお化けだと思い、転げるようにな山へ逃げました。

山の桜の木に叱られたポン太は、婆さんの所に謝りに行きました。心優しい婆さんは「忘れてやるから腹つづみを一度箇かせておくれ」と言い、ポン太は得意気に腹を叩きました。でも婆さんは「お前の腹つづみより、お寺の木魚の方が威勢のいい音がするよ。お寺に行って腹つづみの稽古をしなさい。上手になったら来年の秋には柿の実を毎晩1個ずつ取ってもいいよ」と言ったのです。それから毎日、来年の柿の実を思い、ポン太は練習に励みました。

参考文献／かたりごわかやまの風話（和歌山県老人クラブ連合会）  
監／鶴田英子 挑力／わかやま松木の会

## カルチャー・インフォメーション

### 和歌山県立近代美術館

#### 佐伯祐三～芸術家への道～展

■11月3日(木・祝)～12月11日(日)

近代日本洋画史で独自の位置を占める佐伯祐三(1898～1928)。今回の展覧会では油彩画、水彩画など約140点を展示し、わずか30歳でパリに客死するまでの短時間に高確率で感動した芸術家としての生涯を振り返ります。美術学校時代から2度目の滞在時代までを順にたどることによって、画家と

T 073(436)8690



佐伯祐三(パリの街角(Au Villeneuve))  
1925年

しての自己建立への展開が考察できます。

■午前9時半～午後5時(入館は午後4時半まで) c 月曜(祝日の場合は翌日)  
z 一般800円・大学生500円 ※高校生以下・高齢者(65歳以上)・障害者の方・県内在学中の外国人留学生・就学生は無料

### 和歌山県立紀伊風土記の丘

T 073(471)6123

#### 古墳ガイドツアー

#### 「岩橋千塚を歩こう T字形石室を求めて」

■12月9日(金) 午後1時半～4時

特別史跡「岩橋千塚古墳群」の中でも珍しい「T字形石室」と呼ばれる形の石室を持つ古墳を見学。また普段は非公開の古墳を見ることもできます。参加費は無料ですが、傷害保険料103円が必要。予約締め切り日は11月24日(木)。



#### 子ども体験教室

#### 「昔の正月準備・しめ縄作りとモチつき」

■12月18日(日) 午後1時半～3時半

国内の江戸時代の民家でしめ縄作りとモチつきを体験。かまどの使い方なども学べます。親子対象で、材料費のみ必要(要問い合わせ)。予約締め切り日は12月1日(木)。



しめ縄作り

■午前9時～午後4時半

c 月曜(祝日の場合は次の平日)

z 入場無料(現在資料館は臨時休館中。公園内は通常通り開放)

### 和歌山県民文化会館のご案内

#### 会議室利用案内

和歌山県民文化会館の会議室は、18名収容の会議室6室、30名収容の会議室1室、その他の50名、80名、120名収容の会議室各1室など、幅広い用途に合わせてお使いいただけます。



#### 立体駐車場 利用案内

【開館時間】午前9時～午後9時30分

【休館日】毎月第3火曜日(ただし、その日が国民の祝日・休日にあたるとときは、その翌日が休館)、12月28日～翌年1月4日(年末・年始休館)

【申込受付時間】午前9時～午後9時30分

【申込受け渡し】利用日の14日前から受け

受け渡し料(利用料金等)についてはお問い合わせください

【運営時間】24時間(年中無休)

■駐車料金/30分につき100円、夜10時～翌朝7時まで60分100円、

1日(0時～24時)最大1600円



#### 【お問い合わせ】

TEL.073(436)1331

和歌山県民文化会館管理業務課

**WACAP**

文化情報誌 ワカピー Wakayama Culture and Arts POWER

【発行】和歌山県

【発行日】平成17年11月 【編集】問い合わせ 和歌山県文化振興財团(ワカフ) T 640-8269 和歌山市小松原通1-1(和歌山県民文化会館内)

■073(436)1331 FAX 073(436)1335

【ホームページアドレス】http://www.wacap.or.jp